



令和6年7月1日

補習校だより

No.3 文責 齋藤 寛

小さな七夕飾り

◇2011年、東日本大震災という大きな地震がありました。地震の後、少しすると自分の家はどうか片付いたので、被災地復興ボランティアに参加しました。やっと電気や水道が一部使えるようになった頃です。でも食料や水分は貴重なので、こちらから持って行かなくてはならない頃でした。

◇東松島市につきました。海岸からかなり離れた場所まで津波の被害がひどく、どこもかしこも深刻な状況でした。田んぼの真ん中には流されてきた自動車が置き去りでした。建物全てが半分壊れていたり、空き家だったりが多く、どこから手をつけるのかと、暗い気持ちになりました。

お墓では、墓石のないお墓に手を合わせている人。海岸では流れ着いたものを見つめる人。そんな光景にいたたまれない気持ちになりました。

私達のグループは流されてきたがれきを処理するグループでした。その中には、泥だらけのお人形やおもちゃもありました。(これで遊んでいた子はどうしただろう)と誰もが胸のつぶれる思いでの作業でした。

◇夕方近くになって作業を終え、集合場所にとぼとぼと向かっていると、屋根は傾いていましたが取り壊されずにのこっている家がぼつりと一軒だけ明かりがついていました。近づくにつれ軒下に本当に小さな小さな笹竹で七夕飾りが見えました。

「きれいだな・・・。」と感動して眺めていると、短冊に書かれた文字が目飛び込んできました。

そこには小学生くらいの字で

『ボランティアさん ありがとうございます』と書かれてありました。

自分達がとても深刻な状況のなかでも、私達のことを気遣ってくれるその思いが突き刺さり、痛かったです。

◇七夕の頃になると決まってこの時のことを思い出します。

